

<p><b>6月7日 (日)</b></p> <p>ネヘミヤ記 4章</p>	<p>「角笛の音を聞いたら、わたしたちのもとに集まれ。わたしたちの神はわたしたちのために戦ってくださる」(14節)。捕囚の間にエルサレムで利権を得た人々が神殿再建を武力で妨害してきた時、ネヘミヤたちがしたのは、神に祈り(3節)、主の御名を唱え(8節)、警備と工事の二手に班分けしたこと(10節)。冷静な対応をする彼らの中心に主への信仰が見える。</p>
<p><b>8日 (月)</b></p> <p>ネヘミヤ記 5章</p>	<p>「わたしは言った。『あなたたちの行いはよくない。…神を畏れて生きるはずではないのか』」(9節)。総督としてエルサレムに到着したネヘミヤは、子どもを奴隷に売らなければ暮らせない窮状にあえぐ人々を前に、貴族や役人が何不自由ない暮らしを続ける姿を厳しく批判する。「神を畏れること」と「隣人を愛すること」は切り離せないことなのだ。</p>
<p><b>9日 (火)</b></p> <p>ネヘミヤ記 6章</p>	<p>「(すべての敵は)わたしたちの神の助けによってこの工事がなされたのだということを悟った」(16節)。神殿再建は、城壁の補修工事に始まった。どうしても阻止したい人たちがあの手この手で妨害を試み、ネヘミヤのもとには脅迫文も届けられた。しかし、ついに城壁が完成した時、すべての敵はこの工事が「神の助け」によってなされたことを悟ったのだった。</p>
<p><b>10日 (水)</b></p> <p>ネヘミヤ記 7章</p>	<p>「わたしは心に神の指示を受けて、…家系に従って登録せようとしたところ、最初に帰還した人々の名簿を発見した」(5節)。イスラエルの人々は名簿を大切に保管した。名前が記されていることが、一人ひとりの存在意義を示したからである。今や血筋による名簿にかわって、イエス・キリストが私たち一人ひとりの名を呼んでくださっている。ここに福音がある。</p>

<p><b>11日</b> <b>(木)</b></p> <p>ネヘミヤ記 8章</p>	<p>「主を喜び祝うことこそ、あなたたちの力の源である」(10節)。エズラが読み上げる律法の言葉を聞いて涙したイスラエルの人々に向かって、ネヘミヤは語りかけた。「泣くな。良い肉を食べ、甘い飲み物を飲み、備えのない者には分け与えて、共に喜べ」と。神の前の悔い改め(方向転換)は、新しい喜びの出発であり、その喜びの礼拝は力の源となるのだ。</p>
<p><b>12日</b> <b>(金)</b></p> <p>ネヘミヤ記 9章</p>	<p>「まことに憐れみ深いあなたは、彼らを荒れ野に見捨てることはなさなかった。昼は雲の柱を取り去ることなく行く手を示し、夜は火の柱を取り去ることなく、行く道を照らされた」(19節)。傲慢で、かたくなで、神の言葉に従おうとしないイスラエルの民。何度も何度も裏切られても、忍耐深く導き続ける神。この方の光が今日も、私たちの行く道を照らしている。</p>
<p><b>13日</b> <b>(土)</b></p> <p>ネヘミヤ記 10章</p>	<p>「わたしたちは、地の産物と初物とすべての果実の初物を、毎年主の神殿にささげ」(36節)、「わたしたちは決してわたしたちの神殿をおろそかにしません」(40節)。イスラエルの歴史を最初から憐れみ深く導き続けてくださった主なる神の前で、ネヘミヤたちは誓約を立て署名・捺印をした。私たちも神への感謝と礼拝を、暮らしの中心に大切にしていきたい。</p>
<p><b>14日</b> <b>(日)</b></p> <p>ネヘミヤ記 11章</p>	<p>「他のイスラエルの人々、祭司、レビ人は、ユダのすべての町で、それぞれ自分の嗣業をもって住んだ」(20節)。イスラエルの民は、聖なる都エルサレムに住む者、他の町に住む者に分かれていた。しかし、神の民として自分が託された土地でそれぞれが託された仕事を行っていった。都に住む者も、町や村に住む者も同じように主の祝福が注がれていた。</p>